

平成30年度第2回江別市経済審議会会議録（要旨）

日 時	平成30年10月30日（火） 10:00～12:00
場 所	江別市民会館（37号室）
出席者（13）名	会 長/井上誠司 副会長/平澤亨輔 委 員/小走安則、中野亮二、塩越康晴、和田美和、山崎雅江、佐山慶司、岸本佳廣、鈴木耕裕、皆川和志、池田太郎、岡村恵子
事務局（12）名	江別市長、経済部長、経済部次長、商工労働課長、農業振興課長、商工労働課主査（1名）、農業振興課係長（3名）、ほか3名
欠席者（4）名	委員 /坂上 伸也、松浦 智幸、杉野 邦彦、森田 芳明
議 事	諮問事項 （1）第4次江別市農業振興計画の策定について

会議録（要旨）

会長	開会のことば
江別市長	挨拶
会長	ありがとうございました。本日の議事は、お手元の次第のとおり「第4次農業振興計画」に関する諮問が1件ございますので、事務局より説明をお願いいたします。
商工労働課長	はじめに、「第4次農業振興計画」の策定にあたり、江別市経済審議会に対しまして、三好市長より諮問書を提出させていただきます。
江別市長	諮問書の受渡し
商工労働課長	市長におかれましては、会議の途中ではございますが、このあと、他の公務がございますことから、これをおもちまして退席いたしますので、ご了承願います。（市長退席）
会長	それでは、引き続き、議事を進行いたします。 それでは、次第の3、諮問事項（1）の「第4次農業振興計画の策定について」、事務局より説明願います。
農業振興課長	資料「（素案）第4次農業振興計画」に基づき説明
会長	ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見等ございましたらお受けしたいと思います。
岡村委員	新規就農者は定着しているか。10ページの経営規模において、100ha以上の販売農家で2010年に3戸あったものが、2015年に1に減っているが、どうしてか。
会長	後半は、販売農家が法人になったから、数が減ったのではないか。
農業振興課長	新規就農者については、特に途中でやめたという話は聞いていない。地域との良好な関係を築く中で、就農している。100ha以上の農地を持っているところが減っているのは、農林業センサスからの数字なので、減った理由はすぐに答えられないが。
会長	販売農家が法人化したことなどが理由であると思う。 8ページの新規就農者数は、農家後継者も入れた数字か。カッコ内は新規参入者で良いか。

農業振興課長	表4については、農家後継者と新規就農者を合わせた数字。カッコ内は公社で研修を受けた新規参加者。
会長	カッコ内は新規参加者で良いか。
農業振興課長	新規就農者は公社を通して入ってくる方が多いので、イコール新規参加者である。
小走委員	自然災害は重要な問題だ。31ページに載っているが、対策を入れる予定があるか。計画の進捗管理の項目を選んだ理由を知りたい。
農業振興課長	自然災害は31ページに記載しているが、災害が起こった場合、国や道の補助メニューなどを使いながら対応していくことになる。災害への備えとしては、江別南幌のかんがい排水事業など国営事業、道営事業を活用する中で地域の要望を聞きながら直実に業務を進めていく必要がある。今後の方向性として、国・道と連携する中で対応していくという内容になっている。計画の進捗管理についての指標については、上位計画である総合計画の未来戦略の指標を使っているものもあり、「加工品の認定数」「グリーン・ツーリズム関連施設の利用者数」は整合を図るため採用している部分、「農畜産物の販売実績」については、経営の安定化を見る指標になるかという視点、「えみくろの利用状況」は昨年オープンし、食育事業や都市と農村の交流事業で江別市が進めていきたい事業の中核となる施設としての位置付けから、指標とした。
小走委員	進捗管理は5年間あるので、施策に紐づけてやらないと、目標に達しなかった場合、どこを修正したら改善するのかが分からなくなるので、関連付けて管理してほしい。
会長	私も成果指標を設定したことは、評価する。ただ、増減だけでなく、具体的な数値目標がないと、農家さんも動きにくい。たとえば、基準値に対して何パーセント増加するといった数値を設定する必要があると思う。 なぜ、数値を設定できなかったかという点、これまで計画の検証を行ってこなかったのが、目標数値を示せなかった理由だと思う。前回の目標で何が達成できなかったのか、クリアできたのかを数値で把握することで、目標値が出せると思う。 そういった意味からも、第3次計画の検証を行ってほしいし、第4次計画で具体的な数値を示した方が、より精緻な計画になるし、農業者のための計画になると思う。意見なので受け止めてもらえればと思う。 災害に関しては、保障の面も重要になってくると思う。24ページで収入保険のことが記載されているが、農業者への周知は行っているか。
農業振興課長	米の転作などの受付をJAと市で行っているが、その際に収入保険の説明を共済組合等と一緒に個別説明させていただく場を設けている。
鈴木委員	27ページにブランド化の支援とある。どのように質の高いものを生産していくか、いかに高く売っていくかの両輪があって初めて成立する計画である。農産物をそのままの素材としての状態で売っていくのか、農畜産物を企業に使ってもらうあるいは6次産業化していくというそれぞれの局面において重要である。江別市はハルユタカを初めとして成功事例がある。今後の方向性をみると、あっさりしている。もう少し力を入れていかないと消費者は飽きっぽいので、今後、江別ブランドをより強くするためにも力を入れていくべきと考えるがいかがか。
農業振興課長	左側の6次産業化の推進の中でも、販路拡大や他産業との連携、加工品フェアなどの開催支援等を記載しており、そういった中で販路拡大を目指しており、ブランド化支援の中でも、こうした6次産業化の動きと連携する中で1次産品としての販売だけでなく、付加価値を付けた中での販路拡大など、ブランド化支援に結び付く文言を検討したい。
会長	ブランド化の支援でハルユタカは書いてある。しかし、市内のゆめちからテラスに多くのお客さんが訪問されていて、ゆめちからの知名度が向上している。ゆめちからは無視しても問題ないのか。
農業振興課長	江別の特徴的な作物として、「ハルユタカ」を推している。江別麦の会における栽培技術の確立や生産者の努力の中でブランド化されたもので、江別を象徴する作物であることから、大きく掲載している。

会長	ある意味、ゆめちからは農協にお任せというところがあるのか。
農業振興課長	道央農協としては、ゆめちからを推していきたいということがあるようだが、江別市としては、やはりハルユタカを守っていきたいというところがある。
塩越委員	新規就農者の数が少ない気がする。一方農業者数が減ってきていて、法人化しているということもあるようだが、江別市としてどれくらい新規就農者がいれば、将来に不安のない状態になるのか知りたい。36ページの農協の販売実績から言うと上がっているようだが、個々の農家の収入で行くと上がっているのか分からない。農家をやるには儲からなければ若い人は入ってこないと思うので、今の江別の状況について知りたい。
農業振興課長	新規就農者がどれくらいいたらいいのかについて、農業者の数は減っているが、農地でみると1戸あたりの経営面積が増えていて、やめる方がいれば、周辺の農家が規模拡大のために借りる買う状況にあり、やめていく農業者がいても遊休農地が増えていくという状況にはない。ただ、地域の若返りという点から見ると、高齢化が進んでいるので、やはり新しい就農者は入ってきてほしいということはある。公社では、年間3～4名程度研修し、江別市では平均すると年間1名程度入ってくる状況にあるため、地域の活性化につながっていると思うが、具体的に何人いればよいというのは、試算していない。農家の所得については、実際に農業者の所得を調査したものはないが、農業者が減っている中で、農協の販売実績が上がっているというところで単純に計算すると、農家の経営規模も拡大されているということもあり、農家の所得は上がってきていると考えている。
会長	農地流動化に関して池田委員からなにかあるか。
池田委員	65歳以上が40%いるが、後継者がいるのか。いない人の耕作面積はどのくらいあるのか。その方が将来離農した時、大量に農地が出てきたときに周辺の農業者に集積されるが、どんな作物を作付するのか。そこに作付する作物を考えていかなければならない。
会長	今後、後継者がいない方の農地がどれくらいあって、受け手はどれくらい受けられるのかの検討というのは重要で、農地の対策を計画に含めた方がいいのではないかと感じた。
佐山委員	計画の進捗管理について、今後の方向性について、取れるものは数値目標を設定する必要がある。「GAP」が5年後に何社になればいいのか、「6次産業化」では6次産業化の企業が何社あって5年後には何社になればいいのかなど具体的な数値が必要。今後の方向性は、「図ります。努めます。」という表記が多く、ぼやけている印象。「ブランド化」ではえぞ但馬牛は20～30頭しか食肉にされておらず販売されている物はほとんどない。これを200～300頭にするような支援について考えているのか、ブランド化するには、ある程度、量産できなければならないと思うので、その辺を聞きたい。
農業振興課長	今後の方向性のところで、成果指標をとれるところは取った方がいいということについては、将来的にどうなるのが良いかというのがある。GAPでいえば、現在4法人取得しているが、これが将来的に現状維持が良いのか、増加するのが良いのかなどそれぞれ項目で設定を検討しなければならないものが出てくる。今回成果指標と設定しているものは、総合計画との整合を図る中で、市としてこの目標を達成しようという内容のものである。個別の数値で明らかに設定できるものは今後検討させていただきたい。
会長	やはり目標値は設定すべき。具体的な目標がなければ、農業者が行動に移せない。高収益作物の振興に成功した自治体は、ほとんどが数値目標を設定している。厚沢部町、平取町、富良野市などがそうである。例えば、野菜の生産額を現状の5割増にしようというように目標を立て、実際にその目標をクリアする中で、産地化に成功している。佐山委員の話にもあったが、そういった目標値があれば、どれくらい物を作っていけばいいのか、どういった投資が必要なのか、そのためにはどれくらい融資を受ければいいのかということが明らかになってくる。農業だけでなく地域全体の産業振興に関わる問題でもある。検討ください。専業農家の増加を評価されている。20ページに記載があるが、企業を退職後に専業農家になった方もいるでしょうし、若い方で専業農家としてやっている方もいる。専業農家の中身の分析も必要ではないかと思う。そこについても検討願う。
和田委員	情報発信の強化とあるが、情報発信力が弱い。江別の物を使ったものはここで食べられるといった情報は把握しているか。

農業振興課長	江別産の物を使ったレストランなどの情報を把握しているかといったことか。
和田委員	ぜんぜんメディアから伝わってこないが、そういったところを把握して、情報発信をするということは考えているか。
農業振興課長	ハルユタカを使ったパン屋、江別小麦めんを使ったお店、えぞ但馬牛を提供する店などがあるので、そういった情報を商工労働課、観光分野と連携する中でPRしてまいりたい。
和田委員	それは冊子か何かでか。
農業振興課長	江別コレクションという観光協会が出しているパンフレットで紹介している。
和田委員	それほどどこに出しているのか。市役所以外で置いているか。市外の人に伝わっていない。
経済部次長	今の話で行くと、農業、商業、工業全体の話、観光の話と思う。観光振興計画と一緒に合わせて考えていくことと思う。 今ほど、皆さんから数値目標の話が出てきておりますが、農業振興計画はどちらかというと農業の上位計画で、大げさに言えば農業の憲法のような位置付けである。農業分野で言えば総合計画に次ぐ、上位計画である。初めて、目標設定という形で入れているが、個別の数値目標については、それぞれの事務事業の中で設定している。たとえば、えぞ但馬牛で言えば江別のブランディング事業の中で数値目標を設定しており、それぞれ予算がついている。ワンランク下の事務事業で数値目標を設定するというのが、江別市のやり方なので、今、皆さんからお話をいただいたので、なるべく農業振興計画の中で数値目標を入れる努力をするが、事務事業の中の数値を入れることができるのか、もうワンランク上の目標数値を入れようと考えているので、その辺はご猶予いただけたらと思う。
会長	憲法という話があったが、実践をともなって、どう目標を達成していくのかというのがこの計画の目的であると考えてるので、ぜひ目標値の設定について検討をお願いしたい。 メディアにもっと出るようにという意見もあったかと思うが、冊子はいろいろと出されているかと思うが。
農業振興課長	江別コレクション、江別市まちとむらの交流推進協議会で直売所マップ、貸農園マップ、加工品の商品を紹介するパンフでPRしている。
会長	メディアへの露出をもっとしてほしいという意見だったので、その辺も検討いただきたい。
鈴木委員	GAP認証の推進では、12%しかメリットがあると感じている人がいないにも関わらず、増やしているところはいいと思うが、食加研でもGAP認証を受けている農業者の物を使いたいという方も増えているのでいいと思う。農家戸数が減少する中、22ページでスマート農業の推進が記載されているが、今後の方向性では、国などの補助金を使っていきたいとなつている。もう少し、市としても力を入れていかなくていいのかなと思った。検討いただきたい。
農業振興課長	スマート農業の関係は、日々、農業技術が進歩する中で重要であると考えている。 国も各種補助メニューを用意しているので、もう少し踏み込んだ形で対応してまいりたいと考える。
鈴木委員	補足だが、トラクターの自動走行なども必要だが、都市型農業に江別市の特徴があるので、センシングや気象情報の活用、流通情報の活用などを検討してみたいか。

会長	国営事業なども行われるとのことですので、今後大規模な農業に対応できるようスマート農業についても検討いただければと思う。
岸本委員	直売所が市内には何か所もあり、江別は交通の便がいいので大きなところで3つあるが、それぞれの特徴がわからない。スタンプラリーのようなものがあってもよいのかと思う。
農業振興課長	市内には直売所が大きなものがあり、札幌からも多くの方が来ている。直売所部会では、7月から9月にかけて直売所スタンプラリーを実施しているがこれにも札幌の方が多く参加いただいている。そういった取り組みを初めとして、観光分野と連携する中で、周遊ルートに直売所を入れてもらうなどする中で、直売所の特徴を知ってもらい取り組みをできればと考えている。
会長	周辺市町村で直売所を併設した道の駅が新設されている。ライバルとなる直売所が増加傾向にあるということだ。その意味で、市内の直売所をアピールすることが農業者の所得向上につながると思うので、検討していただきたい。
山崎委員	18-19ページの担い手の育成確保における今後の方向性や取り組みたいことで「予定なし」の理由で55%が後継者がいないとなっており、将来的に不安である。目標みたいなものがないと、新規就農者で入ってくる方も市の考え方が見えてこないのではないのか。
農業振興課長	担い手育成については、公社の受入れや相談窓口の設置等対応しているところである。今、数値目標という話があったが、他の事業等とも総体的に検討させていただいて、計画の進捗管理で数値を取れるところは検討させていただきたい。数値等について、取れるもの取れないものがあるので、今後の方向性についてのところで、内容を膨らませて書くような形で対応させていただきたいと思うので、よろしくお願いたい。
塩越委員	日欧EPA、日米FTAなど発行の可能性が高くなっている中で、江別では畜産や小麦が影響を受けることを危惧している。今、農業後継者がいない中で、いないのか、それとも継がせたくないのかどちらなんだろうという疑問がある。継がせても儲からないのであれば、継がせたくないということで、特に北海道は、TPPの関係で酪農を続けても仕方ないから離農するという方が結構いたと聞いている。そういう農業情勢の不安から後継者問題があるのかお聞きしたい。
農業振興課長	農家後継者になり手がいないことの原因については、こちらで押さえたものがない。TPP等農業情勢が変化する中で、農業の将来に不安を感じている方もいるのではないかと考えている。
塩越委員	この計画が今後5年の範囲で考えると、その外圧とどう対抗していくかを盛り込んでいただけると分かりやすいと思うので、そこを検討いただきたい。
会長	後継者がいない理由について、今回のアンケートではそこまで踏み込んでいないということなので、今後その理由についての設問を設定することについて次回検討いただきたい。
経済部長	今の問題については、個々の掘り下げた議論になるので、今後、農業者の後継者問題については、農業振興計画の大きなくくりの中ではなくて、後継者担い手対策としてどのような対策が効果があるのか、具体的に政策等について考えていきたい。 GAPの問題はなかなかメリットが見えないということもあり、取得については、伸び悩んでいる。今後、TPP等農業情勢が変わる中で、日本の乳製品等が海外へ輸出できるという状況が出てくると、GAPの認証も必要になるので、取得率もあがるのではないかと期待感を持っている。いずれにしても、この農業振興計画は江別市の農業の方向性になるので、そういった意味では減少させるのか上昇させるのかといった大きなところを計画で決めさせていただいて、個々具体的なものについては、個別の計画の中にゆだねていきたいと考えているので、そういったことで議論いただきたいと考えている。新規就農者については、新規参入を農家の方で受け入れるというのは、難しい。ホワイトカラーの人間が新規の農業に参入するというのはハードルが高いと考えている。外国人労働者の活用もあるが、まずは新規参入者がしやすい環境づくりが大事だと考えているので、その辺も含めて検討していきたいと考えている。
副会長	グリーン・ツーリズム関係は、直売所から農家レストランまで多様なものが含まれていて、どの部分でどういう施設が必要かが明確ではない。タイトルも前回までは、グリーン・ツーリズムの推進とっておいて、急にグリーン・ツーリズム関連施設の拡充に変わってしまった。指標にあるのだから、もともとのグリーン・ツーリズムの推進でいいのではないのか。 指標の農畜産物の販売実績について、大規模法人の方はJAを通さないで、直接取引している方もいる。これは、JAの資料なので、そういった方が今後増えてきた場合、指標として適切ないと思うがいかがか。

農業振興課長	<p>グリーン・ツーリズム関連施設の整備促進については、農業振興計画のグリーン・ツーリズムの推進については今後の方向性でも書いてあるが、農村滞在型余暇活動機能整備計画というものを同時並行で作成中で、この中では、どの地域にどんな施設がどれだけの利用者数でというものを記載しており、その中で示している。この農業振興計画は、この計画の上位計画としての位置付けなので、大枠の方向性ということで記載している。</p> <p>J Aの販売実績額については、直売所とか個人で取引している方もいるので、この数値については、より良い数値があるのかも含めて検討したい。</p>
鈴木委員	36ページの進捗管理で、加工品の認定数は、毎年度新たに11件認定するということか。
農業振興課長	毎年度ではなく、例えば年間2件ずつ増えて、トータルで増えているかということを見るもので、11件というのは現在登録されている件数。
鈴木委員	そうすると、認定期間は毎年更新となるのか。5年とか10年とかになるのか。
農業振興課長	3年間で更新となる。
鈴木委員	目標年度では、12件以上であればいいと（読むと）ということか。
農業振興課長	そのとおり。
皆川委員	7～13ページの現況のところ、重要なのはここから課題を抽出することだと思う。こうしたことを分析する中で、課題の中で優先順位をつけて取り組んでいくべきもの。この計画が憲法であるとするならば、細かなアクションまで組み込まないにしても、大きな課題は何かということを出すのが大事である。その上で、江別市の農業としてどこを目指すのか、全体としての収益率が高いのがいいのか、離農しないのがいいのか、遊休農地が少ないのがいいのか等、そこをどう設定するのかで地域のコミュニティをどう維持するのかといった点からも関連してくる。現状データを分析して、それを見える化して、それを毎年経年データとして取りながら、どう改善されているのかを見ていくのが、P D C Aだと思うので、そのあたりがあると分かりやすいと思った。意見として。
中野委員	7ページの農家戸数で第一種兼業農家数が減少しているのはなぜか。 また、耕作放棄地の現状と外国人労働者の現状について教えてほしい。 都市型農業はどのような農業を言うのか教えてほしい。
農業振興課長	農業以外で生計を立てている方が離農したケースが多いのかと考える。また、専業農家が増えていることもあり、逆に規模拡大して農業に専念するという方がいるのかという風に考えている。
経済部次長	耕作放棄地については、ここ数年大きな動きがない。農業委員が地域の農地の番人となって、離農者がいた場合、調整して受け手と出し手を結び付けている。過去から耕作されていない農地もある。市内に7,000haの農地があるが100ha以下の農地が耕作されていない。全体の割合から言えば耕作放棄地としては、少ないと考えている。 ここ近年は大きな変動はないが、この5年間で後継者や離農の関係で農業者も減少すると思われるので、引き続き耕作放棄地が出ないように取り組んでいきたい。 都市型農業の定義は、3ページ中段に記載されている。
農業振興課長	外国人労働者については、外国人労働者の季節就労が認められる方向で国は動いている。将来的には、建設業や農業の分野で認められる動きがある。こうした動きがある中で農協が実習の実施主体となるように、今年の制度改正により可能となったことから、今後、J A等関係機関と協議していきたい。
会長	外国人労働者については、全面的に賛成ではないが、11月1日に閣議決定される予定なので、導入が決まると思われる。労働力不足、担い手不足があるので、いずれ外国人研修生の受け入れが必要になる時が来るかもしれない。現段階では計画に含める必要はないだろうが、今後、計画の見直しを含めて、検討する必要があると考える。

岸本委員	21-22ページの障がい者雇用について、要望だが、農業者視点で書いてあるが、福祉サイドからすると今後、農福連携は重要な問題となってくるので、5年でどこまでできるのかということもあるが、障がい者は人それぞれで、どんな作業ができてどんなことができるかは個人差があるので、息長く取り組んでいかなければならないだろうと思う。福祉サイドからすると農業分野での雇用はすごく重要になると思うので、その辺の視点を文章のどこかに入れてもらえたらと思う。
農業振興課長	農福連携については、農業サイドだけではなく福祉サイドからの考え方もあると思う。そういったところも計画に盛り込めるよう検討したい。
会長	<p>観光振興計画が策定されたが、「食」と「農」について盛り込まれ、観光側からアプローチがある。それについては、大きく受け止めてほしい。前回は観光との連携について取り組んでほしいということ、れんがを使った食育振興などを提案させていただいた。そうしたことをもっと取り上げてほしい。35ページに2行しかないのは、少ない。1項目設けるくらいの検討をしてほしい。</p> <p>市内には全国的に有名な農業者がたくさんいる。その方々は農家単体としては有名だが、江別にいるということは知られていないのではないかと。江別市全体の農業像がはっきりしていないからだ。これからは江別市の農業の全体像をPRすることも検討する必要があるのではないかと。農業振興計画に長ったらしいサブタイトルがつけられているが、そうではなく端的に「江別の農業はこれだ」といったPRも欠かせないのではないかと。「丘のまち美瑛」などというキャッチフレーズがその典型だと思う。そのようなキャッチフレーズを表紙や本文の随所に記載することを検討いただきたい。これにより地域の魅力をアピールすることができるので、観光振興にもつながっていくものと考えます。</p> <p>近隣では千歳市が「千産千消」というキャッチフレーズを使っている。こうしたキャッチフレーズがあると、「この地域の農業はこうだ」というイメージがつかめると思う。江別もキャッチフレーズを作りそれをどんどん使ってほしい。たとえば、都市型農業という話が出たが、「アーバンファームえべつ」などといった方が親しみやすいのではないかと。岡村委員から、江別は「札幌の夜景がきれいに見えるところだよ」「夕陽がきれいなところだよ」といった話を聞いたことがある。「札幌の夜景が望める田園」「夕陽を望む田園」などといったPR方法もありだと思う。れんが、屯田兵村、運動公園があるのでスポーツなど、キャッチフレーズに使える素材が江別にはたくさんある。これらを農業振興にも活かしてほしい。</p>
会長	<p>本日の意見等を参考に、事務局で素案の修正をお願いします。</p> <p>次第の4、その他で、事務局から何かございますか。</p>
農業振興課長	<p>次回の経済審議会の日程につきまして、11月22日（木）10時から開催したいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、第1回の経済審議会でもご説明いたしましたが、今後、11月下旬に経済建設常任委員会へ報告したあと、12月からパブリックコメントを実施する予定となっておりますので、よろしく願いいたします。</p>
会長	閉会のことば